流れ流れて大和川

―つけかえ工事の前後―

2005年9月21日～12月4日

柏原市立歴史資料館

大和川いま、むかし

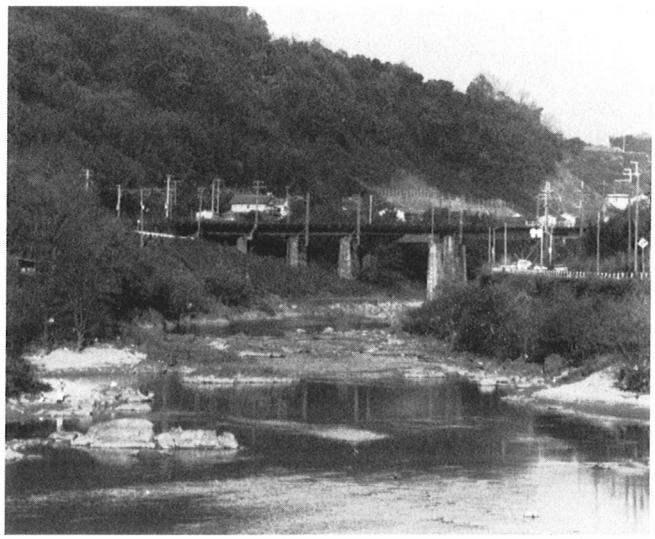
柏原市から西に向かって大阪湾へと流れている大和川。川のはじまりは、桜井市笛吹橋のあたりで、長さは68kmもあります。一級河川としては、全国でも一番汚い大和川ですが、最近は少しずつきれいになり、さまざまな魚や昆虫も見られるようになりました。

今から7,000年ほど前、河内平野は海の底でした。そこに大和川が水といっしょにたくさんの土や砂を運んできて、河内平野が生まれました。大和川は河内平野を何本もの川に分かれて流れ、大坂城の北で淀川に流れこんでいました。しかし、河内平野を流れる大和川は、流れがゆるやかなうえに出口がせまくなっていたので、大雨が降って水が増えると、すぐに洪水をおこすようになってしまいました。何度もくりかえされる洪水に苦しむ人たちは、今から350年ほど前に、大和川の流れをつけかえてほしいとお願いするようになりました。

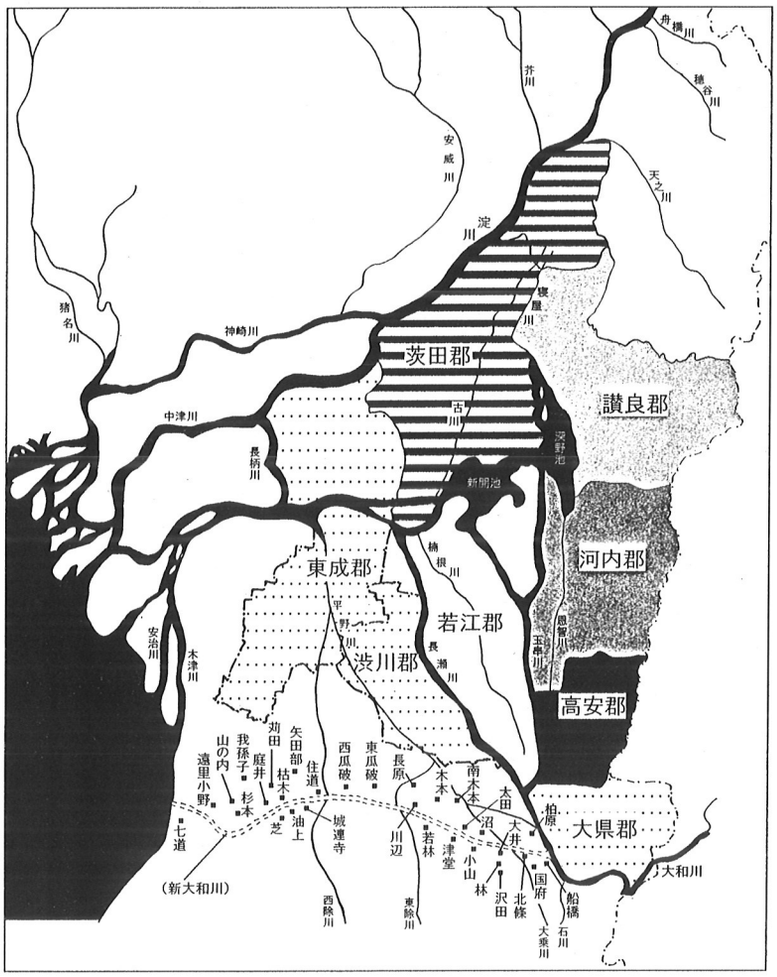
つけかえ運動と反対運動

しかし、つけかえはなかなか実現しませんでした。つけかえに反対する人たちがたくさんいたことが、その大きな理由のひとつです。なぜ、洪水に苦しむ人たちを助けるためのつけかえに反対する人がいたのでしょう。それは、新しくつくられる川の近くに住んでいる人たちが、①新しい川でたいせつな田畑がつぶれてしまう。②新しい川にさえぎられる川が、洪水をおこしやすくなる。③新しい川の北側では、水不足になる。④新しい川が洪水をおこす心配がある。などの理由で反対運動をつづけたのでした。

つけかえを願う人と反対する人。何度も検討されながら、つけかえは実現せず、川の流れをよくするような工事だけが行われました。



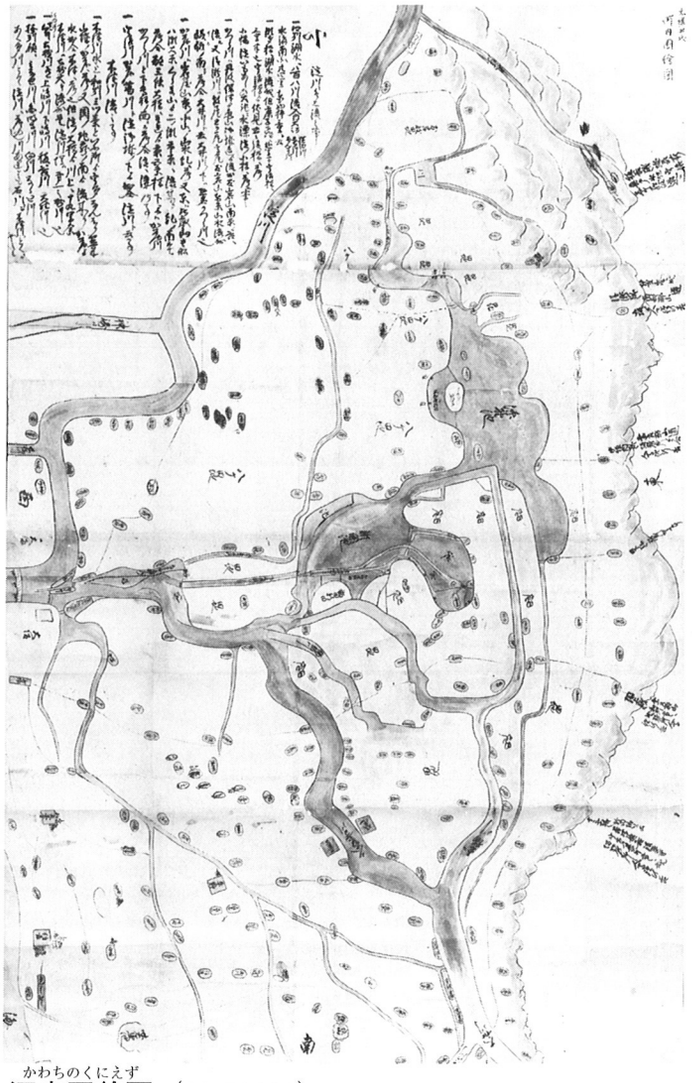
大阪への入口・亀の瀬



大和川のつけかえを願った人たちと反対した人たち

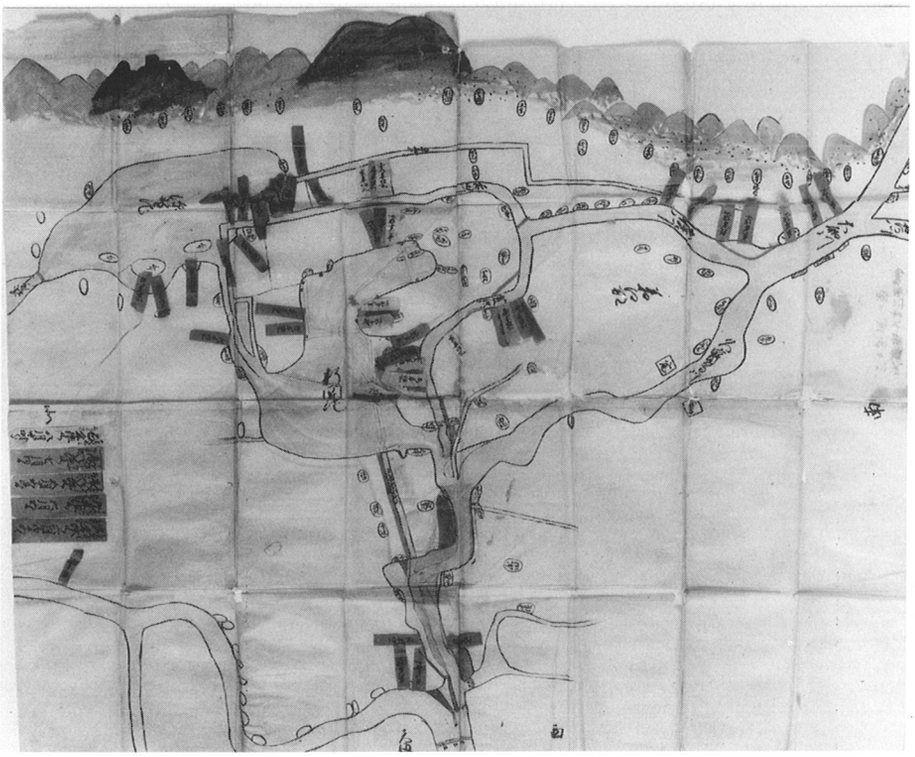
つけかえを願った郡は、貞享４年（1687）以降は河内・若江・讃良・茨田・高安の５郡となり、後に高安郡が脱落。

（八尾市立歴史民俗資料館『大和川つけかえと八尾』より）



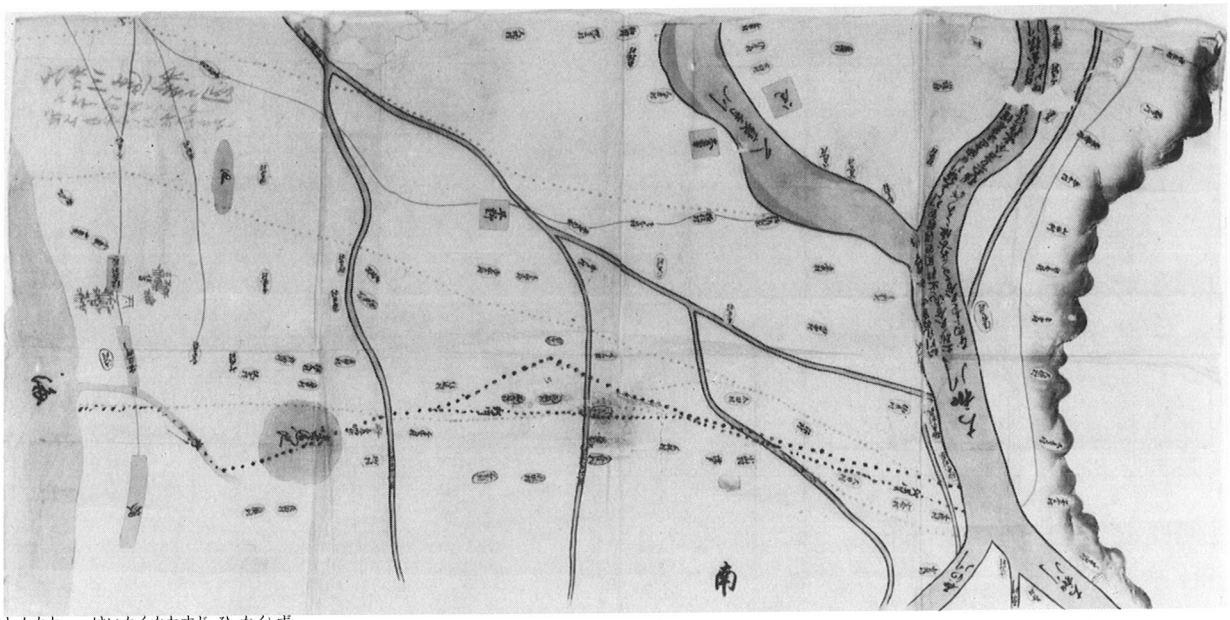
河内国絵図（N-50621）

つけかえ前の大和川の流れがよくわかる。大坂城の北で淀川に合流している。

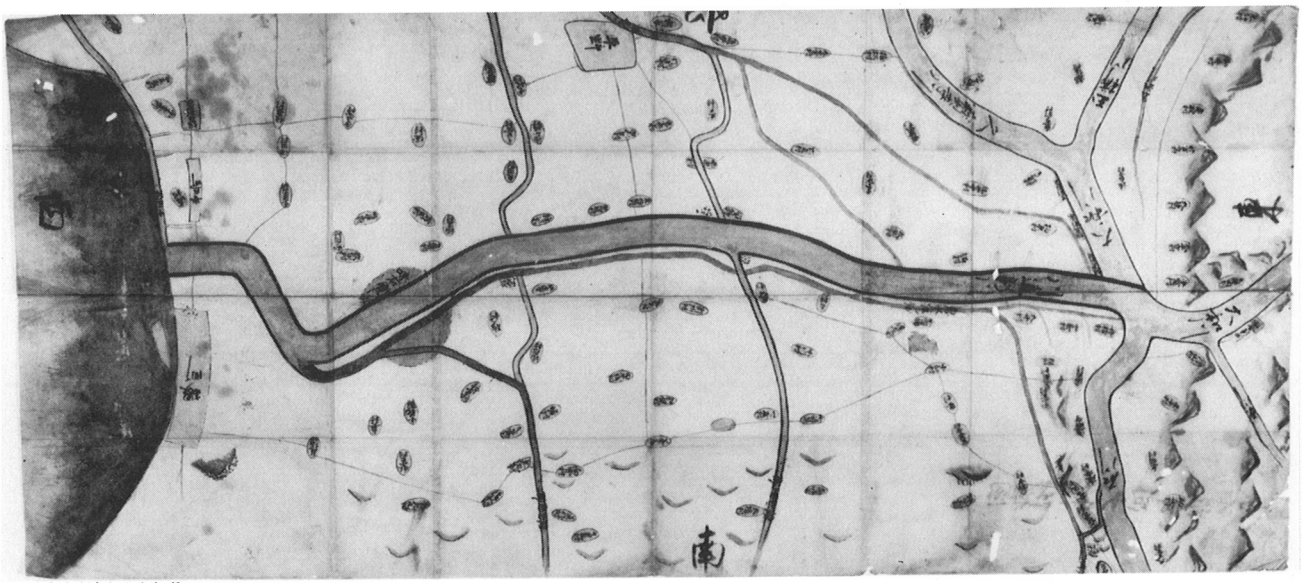


堤切所付箋図（N-50622）

洪水の被害状況を訴えるために、貞享４年（1687）に提出された「堤切所之覚」に伴ってつくられた絵図。1674年から1681年のあいだの５回の洪水で、堤が切れたところに色を変えた付箋をはっている。深野池や新開池、二俣の右岸などで何度も堤が切れていたことがわかる。久宝寺川（長瀬川）ではまったく堤が切れていないこともわかり、つけかえ前の洪水のようすを知る貴重な史料である。この史料などをもとに、玉櫛川・深野池・新開池などの改修を要望している。



新川と計画川筋比較図（N-50623）
新大和川の位置について、５つの案が示されている。天王寺の近くに流す案もあった。



川違新川図（N-50624）
新大和川とそのほかの川の位置関係を示している。

中甚兵衛肖像画（N-50625）
67歳で出家した後に描かれた。

中甚兵衛着用の鹿革陣羽織（N-50626）
内側に３種類の字体で「水」と書かれている。

つけかえ工事

ところが、洪水はなくなるどころかはげしくなるばかりで、とうとうつけかえることに決まったのが元禄16年（1703）のことです。つけかえ工事は元禄17年（宝永元年・1704）2月27日にはじまり、10月13日に完成しています。川幅180m、長さ14.3km、堤防の幅20m以上。この川をつくるために毎日13,000人ほどの人たちが働き、7万両以上のお金がかかったとされています。1両を20万円として計算すると、今の140億円ほどになります。つけかえ運動の中心となって活躍した今米村（今の東大阪市）の中甚兵衛は、工事でも活躍しました。

これだけの工事が7ヶ月半ほどで終わっていることにおどろきます。できるだけ川底を掘らずに堤防を築くだけで新しい川をつくっていることや、分担して競いながら工事をしたことも理由のひとつでしょう。しかし、大急ぎでつくられた堤防は、あまり強いものではなく、その後も何度も修理されています。

つけかえ後の大和川

つけかえ後は、もとの大和川の河原は新田として開発され、そこで育てた綿から作られた河内木綿は全国に知られるようになりました。田畑に水をひくために、大和川の堤に樋をつくり、水はきびしく管理されるようにもなりました。一方、新大和川の周辺では、つけかえに反対していた理由の多くが現実となってしまい、土地を失ったり、洪水が多くなったり、村が川の両側に分かれてしまったり、迷惑なことが多かったようです。

昨年（2004年）は新しい大和川の完成から300年、今年で301年になります。もう1度、大和川の歴史についてみんなで考えてみましょう。

—文化財講演会のおしらせ—

「堤防の風景—江戸時代の大和川堤防—」

京都大学人文科学研究所　岩城　卓二　氏

2005年11月5日（土）　14：00～15：30　柏原市立歴史資料館研修室にて

大和川つけかえ地点

・このリーフレットは、2005年9月21日から12月4日まで開催する秋季企画展「流れ流れて大和川」に伴って作製したものです。

・写真を掲載した資料は、中九兵衛氏の所蔵資料です。

柏原市立歴史資料館

〒582-0015　大阪府柏原市高井田1598-1

TEL 0729-76-3430